## 【資料1】 「コミュニケーション英語Ⅰ」 グランドデザイン ～目標を明確にし、授業の全体像を俯瞰する～

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ① 目標 | | ☆ 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。 | | | 【ポイント】<br>・学習指導要領をもとに、各段階での目標を具体的に記載。 |
| | | ★背景知識の活性化<br>○教材のテーマを提示し、学習者の興味・関心を高める。<br>○読むための目的を明確にし、積極的な読みを促す。<br>○語彙や文法項目などの言語材料で、難解なものがあれば理解を促す。 | ★知識の習得と情報の整理<br>○教材の作者の意図を理解する。<br>○文や段落の組立を理解する。<br>○言語材料を理解する。 | ★知識・理解の深化と発展<br>○教材の内容を復習し、正しく理解できているかを確認する。<br>○教材の内容をこれまでの知識や興味と関連づけ、新たに形成された考え方や価値観を生徒自ら確認する。<br>○言語材料の理解度を確認する。<br>**【ポイント】生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践できるように具体的な言語の使用場面を設定して、言語活動を英語で行う。** | |
| | Can-doリスト | 『教師が、英語ではっきりと話せば、その話題が何であるか分かる。』など<br>『中学校で習った文法事項をほぼ適切に使いながら話すことができる。』など | 『教師の英語での質問に、ある程度英語で答えることができる。』など<br>『教科書の英文を1分間で80語の速さで読むことができ、ほぼ意味を理解できる。』など | 『自ら進んで英語を使って話すことができる。』など<br>『必要に応じて、個人的なこと、将来のこと、身辺のことを英語で書くことができる』など | ・Can-doリストにはL、R、S、Wの4技能に加え、コミュニケーションを行う上での方略や基礎的技能の項目を設定すると、学習者にとって有効である。 |
| | | **【ポイント】Can-doリストは学習者にも提示し、指導者と共に目標を意識して各活動に取り組むことが重要である。また、各指導者間の内的なシラバスが可視化され、教科内で共通認識が生まれる。短期間に「～ができる」ようになるのではないが、「～ができる」ようになることを意識して継続して指導することが重要。** | | | |
| | 4技能 | L, Sを中心 | R, L, S, Wを中心 | L, S, Wを中心 | |
| 教材 | 英文素材 | ・該当のLesson<br>・関連教材 | ・該当のLesson | ・該当のLesson<br>・発展的関連教材 | ・基本的には教科書を使用する。 |
| | 語彙・文法等 | ・中学校時の既習文法等 ・高校での新出文法 | | | |
| | その他 | ・該当する課に関連する教材、Visual教材 等々 | ・Worksheet等 | ・Out-put活動に必要なもの | |
| ② 授業 | 構成 | Pre-reading | While-reading (In-reading) | Post-reading | ・入学直後からある一定の期間は、Class Room Englishの定着を図るための訓練（例えば、毎時の帯活動を設定して行う訓練など）が必要となる。<br>・全体の流れを意識した『発問』が 重要である。<br>※Pre-questionsはWhile-questionsへ繋がり、そして最終的なPost-questionsへ繋がることを念頭に置いた『発問』をする。 |
| | 活動 | ・教師-生徒間のInteraction | | ・生徒間のInteraction | |
| | | ・Top-down型とBottom-up型をバランスよく配した読み ※読解のためのschemaの活性化 | | ・Post-questions<br>◎ Out-put 活動のモチベーションを上げる発問。<br>・Graphic Organizer ・Summarizing ・Re-telling<br>・Micro-debate ・Role-play ・Making-Story ・Drama<br>・Journal ・News-reporter ・Interviewing 等の手法 | |
| | | ・Pre-questions<br>◎ これから「読む」ことの意欲を高める発問。<br>・Graphic Organizer ・Brain-Storming<br>・Semantic-mapping ・Pre-discussion 等の手法 | ・Questions & Answers<br>① 一般疑問文(Yes, No-questions)<br>② 選択疑問文(選択肢から選ぶquestions)<br>③ 特殊疑問文(Wh-questions)<br>様々な音読活動 | | |
| | | 【ポイント】視覚的効果をねらったり、考えるプロセスを図式化して整理したりする中で、学習者の意欲を高める手法を多用することが望ましい。 | 【ポイント】一問一答で終わらず、広がりのある問へ展開したり、学習者の反応に対して、更に問を返したりなどInteractionを行う。<br>※学習者の反応に応じ、①→③あるいは③→①など、難易度も考慮した発問を行う。 | 【ポイント】英語による言語活動を通じて、学習者の主体的な取組になるような手法を使用する。 | |
| | 文法等の取扱い | ・生徒の「気付き」を主にした導入<br>・簡潔な説明（中学時の導入を知ったうえで） | ・文脈の中で再認識させる | ・既習の文法を使用する場面の設定 | |
| ③ 評価 | 評価規準 | ・主に「コミュニケーションへの興味・関心・意欲」<br>・主に「言語や文化についての知識・理解」 | ・主に「外国語の理解の能力」 | ・主に「外国語の表現の能力」 | ・4観点を盛り込む |
| | 評価方法 | ・観察 ・Worksheet | ・Worksheet ・筆記テスト | ・観察 ・発表 ・Performance 評価 | |
| 【ポイント】 | | ・素材に対する臨場感を高めるために、例えば劇場的な場面設定を行ったり、積極的かつ自ら素材を読もうとする意欲が生まれるようなtaskを工夫する。<br>・中学時の授業形態の踏襲（入学初期のころは特に重要なポイント） | ・Out-put の訓練を兼ねた内容読解を目指す。内容読解は重要であるが、英語使用の訓練がなく、内容読解そのものが最終目標となることは避けなければならない。内容読解は、英語使用の場面を設定した活動となることが重要である。 | ・学習者の多様な Out-put を受け止め、クラス全体へのフィードバックを行う。 | ・各指導段階をPost-Readingへ繋がる活動として意識する。<br>※「読み」で理解を深めると同時に、発信力のための基礎技術を身に付ける活動を行う。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 参考 | | **【資料2】** ELEMENT Communication English Ⅰ のLesson 2 Question例（各Pre, While, Post-readingの段階に沿った発問） | | | 【資料3、4】は4技能のスキルアップを念頭に実践された先進校の例 |
| | 実践事例 | 文部科学省提供「高等学校版新学習指導要領に対応した外国語活動及び外国語科の授業実践映像資料3」岐阜県立東濃実業高校3年生（亀谷教諭）の導入時の生徒との Interactionの映像が参考になる。 | **【資料3】** 佐世保北高1年生（相原教諭） | **【資料4】** 長崎北陽台高2年生（黒川教諭） | |